

木徳神糧株式会社

2011年12月期第2四半期累計期間
(2011年1月～6月)決算説明資料

2011年8月26日(金)

内容

■ 2011年12月期第2四半期累計期間
(2011年1月～6月)の業績報告並びに
通期計画の見通し及び進捗状況

■ 通期における課題と対策

2011年12月期第2四半期累計期間
(2011年1月～6月)の業績報告並びに
通期計画の見通し及び進捗状況

目次

1. 第2四半期累計期間連結損益計算書
2. 第2四半期累計期間連結セグメント別損益
3. 第2四半期累計期間連結貸借対照表
4. 第2四半期累計期間連結キャッシュフロー
5. 連結・単体通期計画の見通し及び進捗状況

1. 第2四半期累計期間連結損益計算書

単位:百万円

項目	11年度第2四半期累計期間 (2011年1月～6月)実績	10年度第2四半期累計期間 (2010年1月～6月)実績	増減
売上高	48,484	52,562	△4,078 (△7.7%)
営業利益	1,047	499	548 (+109.8%)
経常利益	1,038	439	599 (+136.4%)
当期純利益	△111	235	△346 (△147.2%)

前年同期比の主要増減要因

売上高: 米穀事業 △4,407百万円(22年産米の販売価格が21年産米より大幅下落)
 飼料事業 +225百万円(牧草、穀類や糟糠類の取扱数量の増加)
 食品事業 +111百万円(米粉や機能性食品の販売増加)

営業利益: 米穀事業 +555百万円(仕入施策の効果、販売数量増による利益の拡大)
 飼料事業 +10百万円(取扱数量増による利益の拡大)
 食品事業 △19百万円(鶏肉販売や惣菜販売の低迷)

経常利益: 営業外収益 +32百万円(配合飼料に係る補填金等の増加)
 営業外費用 △20百万円(支払利息減少 27百万円)

当期純利益: 特別利益 +253百万円(地震保険給付金 249百万円)
 特別損失 +1,257百万円(震災損失 917百万円 減損損失 265百万円)

注:数値は百万円未満切り捨て。

特別損失の内訳

単位:百万円

項目		金額	注記
東日本大震災による損失	固定資産除却損	369	建物・建物附属設備、機械装置等の損失
	棚卸資産滅失損	283	原材料、製品、商品、仕掛品等の滅失
	現状回復費用	153	各工場の建物・設備の修繕費用
	その他	109	残存リース料、建物等の撤去費用等
東日本大震災の影響による減損損失		265	仙台工場土地の減損処理による損失
その他		95	資産除去債務計上による損失
合計		1,278	

注:数値は百万円未満切り捨て。

2. 第2四半期累計期間連結セグメント別損益

単位：百万円

項目	11年度第2四半期累計期間 (2011年1月～6月)実績		10年度第2四半期累計期間 (2010年1月～6月)実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
連結合計	48,484	1,047	52,562	499	△4,078	+548
米穀事業	38,956	1,316	43,363	761	△4,407	+555
食品事業	4,320	△8	4,209	11	+111	△19
鶏卵事業	2,946	45	2,952	50	△6	△5
飼料事業	2,261	135	2,036	125	+225	+10
消去又は全社	-	△442	-	△449	-	+7

注：数値は百万円未満切捨て。

3. 第2四半期累計期間連結貸借対照表

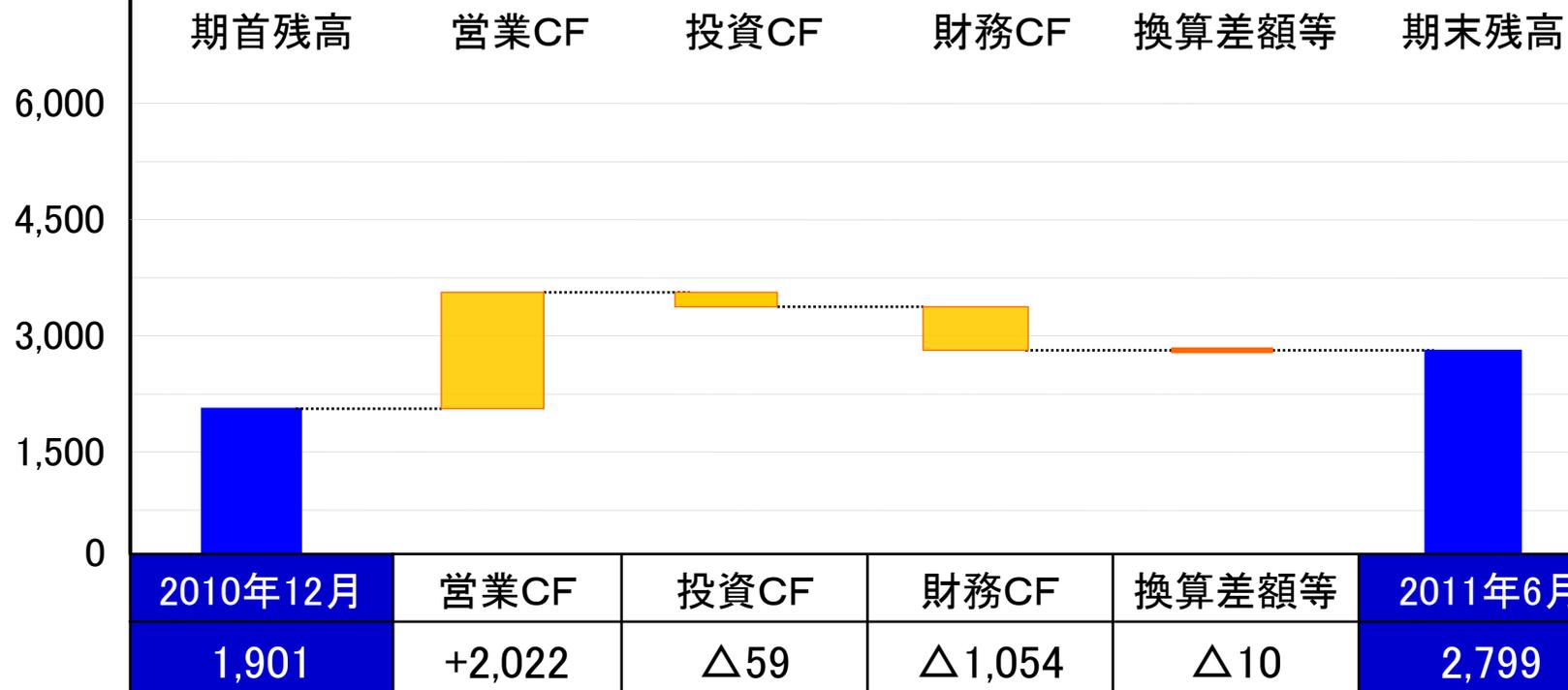
単位:百万円

項目	11年度第2四半期 累計期間(2011年 6月末)実績	10年度第2四半期 累計期間(2010年 6月末)実績	増 減	増減要因
流動資産	15,613	14,782	+831	現金預金+658 棚卸資産+320 未収入金+279 前渡金(*)+276 売掛金△676
固定資産	7,400	8,467	△1,067	減価償却費△502 固定資産除却損△369 減損損失△265
資産合計	23,014	23,250	△236	
流動負債	14,893	15,578	△685	短期借入金等△2,109 買掛金+776 前受金(*)+593
固定負債	2,566	2,237	+329	長期借入金+313
負債合計	17,460	17,816	△356	
純資産合計	5,554	5,433	+121	
負債純資産合計	23,014	23,250	△236	

(*)前渡金、前受金の主な増加要因は、ミニマム・アクセス米に係る取引によるものです。

4. 第2四半期累計期間連結キャッシュフロー

単位:百万円



営業CF: 売上債権減少1,488 災害損失917 減損損失265 減価償却費226
 その他1,203 仕入債務減少Δ1,884 災害保険金Δ249

投資CF: 設備投資額増加Δ51

財務CF: 長期借入金減少Δ516 社債減少Δ260 短期借入金減少Δ230

注: 数値は百万円未満切捨て。

5. 連結・単体通期計画の見通し及び進捗状況

単位：百万円

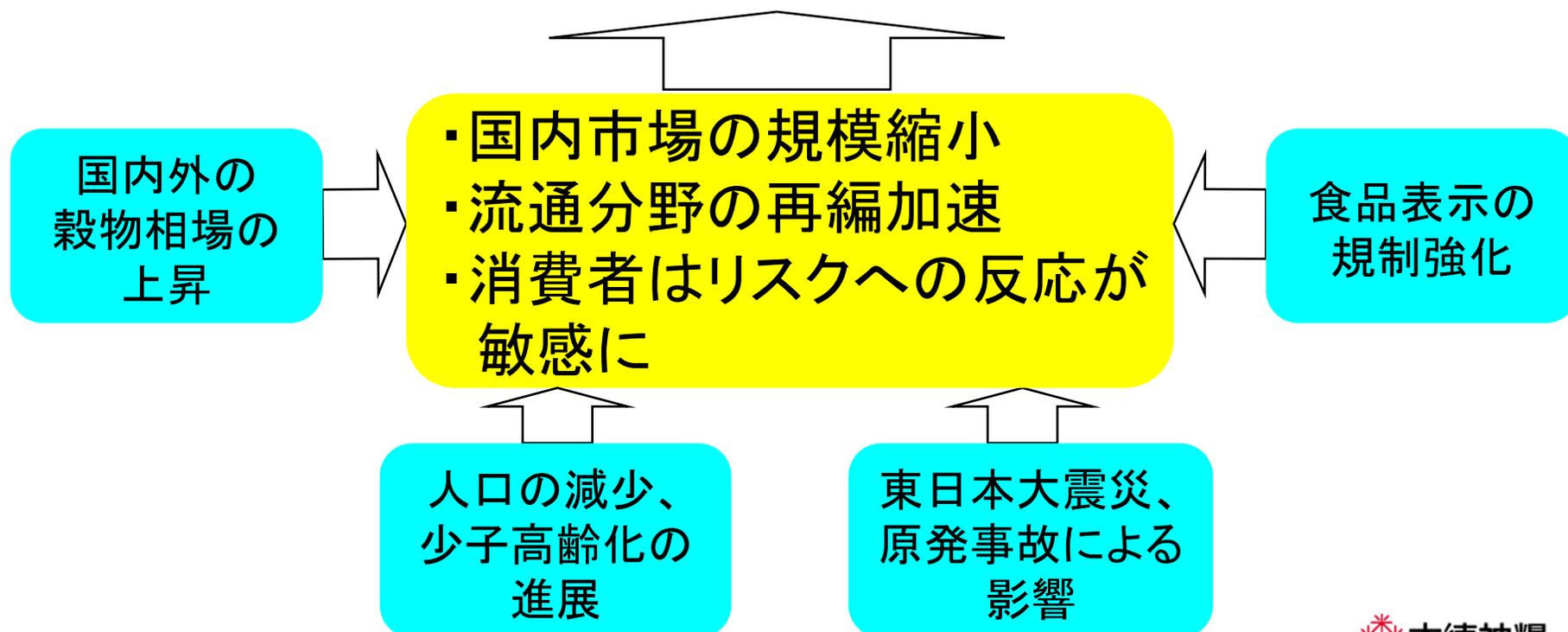
項目		10年度実績	11年度通期計画の見通し及び進捗状況		
			第2四半期累計期間 (2011年1月～6月)実績	通期計画 (8月2日修正発表)	進捗率
売上高	連結	102,284	48,484	100,000	48.5%
	単体	85,469	40,460	82,800	48.9%
営業利益	連結	1,226	1,047	1,490	70.3%
	単体	1,020	944	1,300	72.6%
経常利益	連結	1,087	1,038	1,430	72.6%
	単体	945	964	1,300	74.2%
当期純利益	連結	585	△111	200	—
	単体	515	△88	170	—

注：数値は百万円未満切捨て。

通期における課題と対策

1-1. 取り巻く経営環境(事業全般)

消費行動は、
安全・安心への拘りが強まるなか、
低価格と付加価値への追求が顕著



1-2. 取り巻く経営環境（主力の米穀事業）

主食としての国内
需要の減少に歯止
めが掛からない

過熱報道の影響で
消費者による
買いだめが頻発

デフレ環境下で店
頭価格の大幅な
値上げは困難

- ・消費者の自己防衛による消費行動が顕著に
- ・消費者の低価格志向が依然根強い

安全・安心かつ適正価格のコメの安定供給

国内市場
・大手卸の存在感向上
・中小卸の淘汰加速

海外市場
・成長市場への進出

- ・生産・供給過剰の構図が変わらない
- ・卸会社にとってリスクとチャンスが並存

22年産米需給は
過剰から逼迫へと
様変わり

23年産米の作況や
放射能検査結果に
注視

コメ先物試験上場による価格への影響

2. 通期における課題と対策

主要な経営課題：

1. 国内における確固たる地位の確保
2. 海外におけるコメビジネスの展開
3. 新しい用途、付加価値商品の開発
4. 特徴ある飼料事業の成長
5. 食品事業、鶏卵事業の収益改善

2-1-1. 通期における課題と対策

国内における確固たる地位の確保

◆主要取引先におけるシェアの拡大

大手卸としての存在感を発揮し、安全・安心な製品の安定供給を実現



コメ売り場(イメージ)

◆新規取引先開拓の強化

営業組織の再編を実施し、攻めの営業を堅持

◆東海地区での進展

- ・木徳東海は設立初年度から黒字化
- ・中京地区を見据えた事業展開へ



木徳東海株式会社(静岡県静岡市)

2-1-2. 通期における課題と対策

国内における確固たる地位の確保

◆グループの生産体制の見直し

- ・被災した仙台工場をカバーし、自社工場と委託工場の連携体制を強化
- ・事業展開に対応する精米工場配置の見直し

◆生産管理、品質管理の強化

- ・事業継続計画や危機対応体制の見直し
- ・放射能自主検査体制の構築と運用

◆コメ先物市場活用方法の模索

- ・リスクヘッジや仕入市場としての可能性を検討



2-2. 通期における課題と対策

海外におけるコメビジネスの展開

◆ 三国間貿易の拡大

- ・ベトナムにおけるジャポニカ米仕入の強化
- ・長粒種及び中粒種米の販売に注力

◆ 成長市場の開拓

- ・木徳(大連)貿易を足掛りに中国事業を展開
- ・日本米の輸出を引き続き推進

◆ 安定的なMA米の取扱い

- アメリカ、タイの有力シッパーとの連携により、一定の取扱規模を維持



ベトナム産ジャポニカ米



MA米の荷上げ

2-3. 通期における課題と対策

新しい用途、付加価値商品の開発

◆米粉需要の創造(コメ消費拡大、自給率の向上)

- ・23年産新規需要米契約年間1,200トン規模を維持
- ・食品メーカー、米菓メーカー等向けの提案型営業の促進

◆コメの新たな価値創造

- ・「ライスミルク」の製販体制を拡充
- ・ネット通販チャネルの構築

◆低たんぱく米、低カロリー米市場の拡大

- ・多様なニーズに対応する商品の開発

肥満予防の低カロリー米無菌米飯「毎日ごはん」の拡販

小麦アレルギー対応の製パン向け低たんぱく米ミックス粉の年内発売

- ・研究開発で企業間・産学間の連携強化



ライスミルク



低カロリー米

2-4. 通期における課題と対策

特徴ある飼料事業の成長

◆安全・安心な飼料原料の供給

環境やニーズの変化に対応し、優位性を発揮できる飼料原料の取扱数量を拡大



輸入牧草

◆輸入飼料の拡充

グループ海外法人（ベトナム、タイ、アメリカ、中国）との連携により、ニーズにマッチする輸入飼料の取扱増

◆付加価値商品の開発

コメ糠を飼料原料から食品原料へと用途を拡大



カリフォルニア牧草地

2-5. 通期における課題と対策

食品事業、鶏卵事業の収益改善

◆鶏肉分野の復調

- ・量販店や小売店との取引基盤を強化
- ・付加価値商品の販売を促進

JAS有機認定オーガニックチキンやコメ等を飼料とする「こめ鶏」の販売



注目のコメ鶏

◆惣菜分野の拡充

- ・グループ内の連携強化と製販体制のレベルアップ
- ・健康で楽しいライフスタイルにマッチするメニューの開発

◆鶏卵事業の改善

- ・価格競争に対応できる低コスト体制の構築
- ・付加価値商品(特殊卵)の認知向上と拡販



カロチンE卵

注意事項

本資料のうち、業績計画等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。